
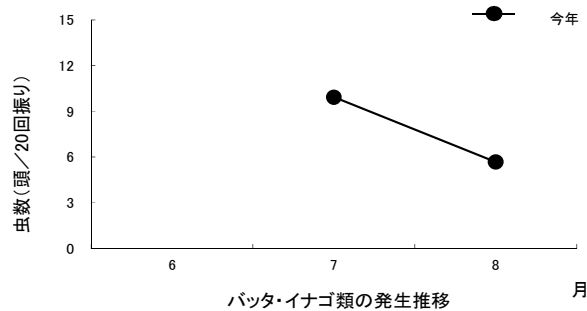


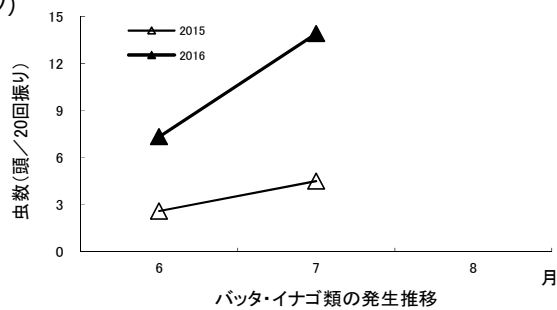
作物	さとうきび	地域	八重山群島
病害虫名	① バッタ類		
8月の発生量（現況）	判定不可		
9月の増減傾向			
増減傾向の根拠	データの蓄積不足のため、判定保留。		

発生量の根拠（調査結果）

- ・ 8月中旬の調査の結果、サトウキビほ場及び採草地等の捕虫網20振あたり頭数は5.7頭で、うちチュウゴクヒゲナガイナゴが1.0頭であった。
- ・ 防除員の報告によると、与那国島でバッタ類の発生が確認された。（今年のデータ）




（過去2年のデータ）



防除のポイント

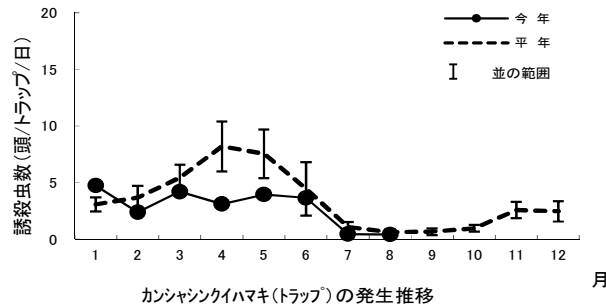
- ・ 老齢幼虫になると薬剤の効果が低下するので、若齢期の防除が重要である。
- ・ 発生源となるほ場及び周辺の除草を徹底する。

作物	さとうきび	地域	八重山群島
病害虫名	② メイチュウ類 (カンシャシクイハマキ)		
8月の発生量(現況)	並		
9月の増減傾向	→		
増減傾向の根拠	トラップ誘殺虫数の平年の発生推移から、8月と同程度の発生量と考えられる。		

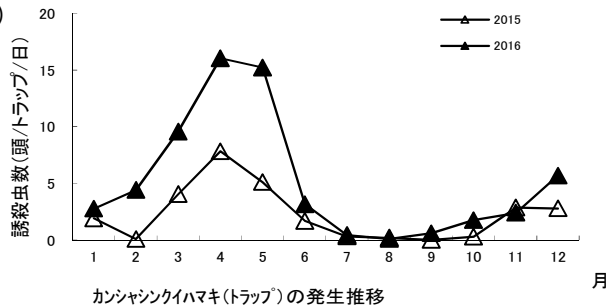
発生量の根拠 (調査結果)

- ・ 8月のカンシャシクイハマキ合成性フェロモントラップによるトラップ当たり日当たり誘殺虫数は0.4頭 (前年0.1頭、平年0.6頭) と平年並であった。
- ・ 防除員の報告によると、波照間島及び与那国島の新植夏植ほ場において、メイチュウ類の被害が確認された。

(今年のデータ)




(過去2年のデータ)



防除のポイント

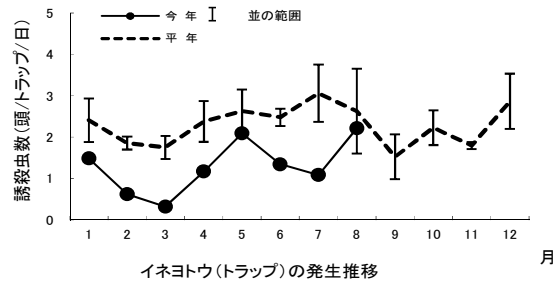
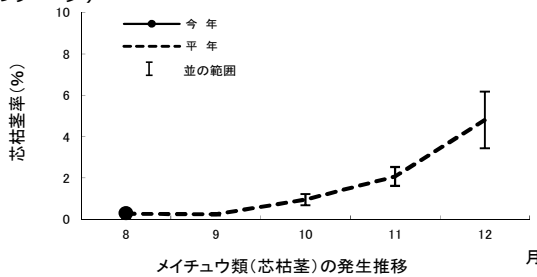
- ・ ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・ 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間に散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・ 植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

作物	さとうきび	地域	八重山群島
病害虫名	③ メイチュウ類 (イネヨトウ)		
8月の発生量(現況)	並		
9月の増減傾向	→		
増減傾向の根拠	芯枯茎率の平年の発生推移および切開調査の結果から、8月と同程度の発生量と考えられる。		

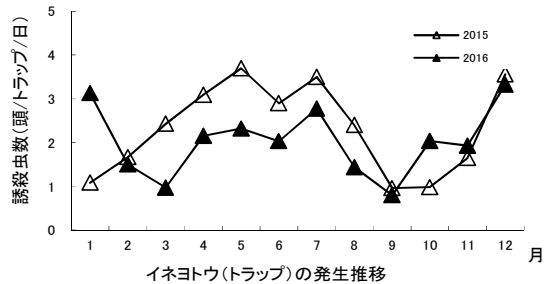
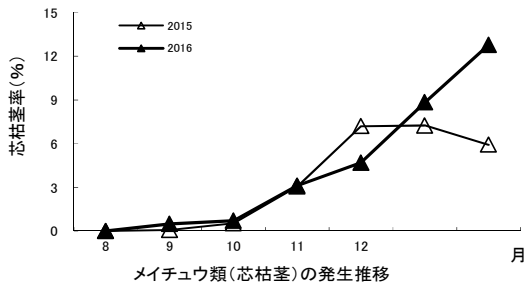
発生量の根拠 (調査結果)

- ・ 8月中旬の調査の結果、夏植ほ場における芯枯茎率は0.3% (前年調査なし、例年0.3%) と例年並であった。また芯枯茎切開調査の結果、確認された幼虫は全てイネヨトウであった。
- ・ 8月のイネヨトウ合成性フェロモントラップによるトラップ当たり日当たり誘殺虫数は2.2頭 (前年1.4頭、平年2.6頭) と平年並であった。
- ・ 防除員の報告によると、波照間島及び与那国島の新植夏植ほ場において、メイチュウ類の被害が確認された。

(今年のデータ)



(過去2年のデータ)



防除のポイント

- ・ 卵は塊で産み付けられ、ふ化した幼虫は葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・ 乳剤の場合は葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は茎と葉元の間散布し降雨や散水等により溶解させ葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・ 植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。